

令和2年度 創形美術学校
項目別・学校自己評価表

実施日：令和3年6月11日

本物にふれる 本当の力をつける



目 次

1	1. 学校の教育目標
	2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画
	3. 評価項目の達成及び取組状況
	(1) 教育理念・目標
2	(2) 学校運営
	(3) 教育活動
3	(4) 学修成果
4	(5) 学生支援
	(6) 教育環境
5	(7) 学生受入募集
	(8) 財務
6	(9) 法令遵守
	(10) 社会貢献・地域貢献
	(11) 国際交流
7	4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果
	(1) 教育評価
	(2) 財務評価
	(3) 自己評価
8	5. 学校自己評価委員の評価結果について

1. 学校の教育目標

本校は広く美術造形・デザイン全般に関する高度な学理と技能の教授、あわせてグローバルな社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れたクリエイターを育成する。それによって日本文化の発展に貢献することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 学生の自己評価と成績、出席率などを含めた学習効果の可視化の推進
- (2) 入学試験制度の改革
- (3) 社会貢献・地域貢献活動の推進
- (4) IT環境、およびアトリエ環境の整備

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】

適切:4 / ほぼ適切:3 / やや不適切:2 / 不適切:1

○ 学校の理念・教育目標・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
○ 学校の特色は示されているか	④	3	2	1
○ 学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
○ 学校の理念・教育目標・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4	③	2	1
○ 各学科の教育目標、育成人材像が方向づけられているか	④	3	2	1

〈課題〉

急激な時代変化に対応した人材育成の目標達成を図ったカリキュラムの定期的な再点検が必要。

学生自ら掲げた目標へ到達できるよう自主性の育成強化が必要。

高校卒業者のみではなく、幅広い年齢層へ向けた教育提供の長期計画が必要。

〈今後の改善方策〉

研究科、社会人教室などの充実を図る。

〈特記事項〉

学習効果の可視化を行い、全教員の情報共有と教育方針の統一を確認。

(2) 学校運営

【評価項目】

適切:4 / ほぼ適切:3 / やや不適切:2 / 不適切:1

- | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|---|---|
| ○ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 運営組織や意思決定機能は、明確化されているか、有効に機能しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 人事、給与に関する規程等は整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 意思決定システムは整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課題〉

次年度におけるカリキュラム策定期間の前倒し。

教育活動等に関する情報公開をさらに強化する。

〈今後の改善方策〉

アトリエの快適化、及び効率化。映像設備の充実と活用。IT化への環境整備と推進。

就業規則の改訂。さらなる感染症対策を講じた学校運営の推進。

防災対策の整備を進める。

〈特記事項〉

感染症対策を厳しく実施。新型コロナウイルス陽性者0名を実現。

高等教育修学支援新制度の対象校と認可を受ける。

緊急事態宣言時においても安定した授業、雇用などの運営を実施。

(3) 教育活動

【評価項目】

適切:4 / ほぼ適切:3 / やや不適切:2 / 不適切:1

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件が体系的な位置づけにあるか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課 題〉

キャリア教育のカリキュラム編成の見直し。

IT社会が進む時代に即したカリキュラムの改訂、社会人へ向けての人間力の強化が必要。

中学高校の美術教育が弱体化していることなどが顕在化し、アート・デザインに触れる機会が少ない学生の増加傾向に対し、ジャンルに拘らず幅広く知る機会を積極的に設ける必要がある。

〈今後の改善方策〉

キャリア教育の更なる充実を図り、指導を強化する。

先端メディア講座の充実を図る。

1年次より人間力の育成に特化した授業、幅広いアート、デザインに触れることを意識した授業をカリキュラムに取り組む。

〈特記事項〉

リモート授業に対応できるよう学生へのパソコンの貸出を実施。

年間通じてのパソコン講座の充実が図られた。

(4) 学修成果

【評価項目】

適切:4 / ほぼ適切:3 / やや不適切:2 / 不適切:1

○ 就職率を向上させるための施策は図られているか	④	3	2	1
○ 学習成果の可視化が図られているか	④	3	2	1
○ 退学率を低減するための施策は図られているか	④	3	2	1
○ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
○ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

〈課 題〉

可視化された学習成果が低い学生への対策が急務。

就職活動に対して消極的な学生に対し、就職に対する意識向上が必要。

新型コロナ感染拡大の影響により、卒業生との交流の機会が奪われる。

〈今後の改善方策〉

1年次から就職意識を高めるカリキュラムを構築。卒業生の近況情報の把握。

卒業生との交流の場の復活。

〈特記事項〉

学習成果を可視化したデータを教員全員が活用できる環境を整えた。

(5) 学生支援

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

○ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○ 学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
○ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
○ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○ 学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
○ 保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
○ 卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
○ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1

〈課題〉

コロナ鬱などのメンタルヘルスに問題を抱える学生への対応強化。

〈今後の改善方策〉

業界、外部関係者と連携を図りながら学生支援、就職支援を強化、改善していく。

〈特記事項〉

リモート授業の受講が整わない学生へ対しパソコンの貸出など支援策を実施。

アルバイト喪失による経済的困窮学生へ対し緊急支援制度として最大20万円の給付を実施。及びアルバイトの斡旋。

(6) 教育環境

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

○ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
○ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
○ 防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

〈課題〉

地震時など災害時帰宅困難者への対応準備の充実を図る必要がある。

〈今後の改善方策〉

大型修繕に備えての資金確保の計画のさらなる推進。

災害時帰宅困難者へ向けて備蓄品の確保。

CO2削減へ向けての長期計画の推進。

感染症対策における衛生面のさらなる強化。

コロナ後の海外研修生の支援体制の連携と強化が必要。

〈特記事項〉

4・5月の休校時にリモート授業を行う上での必要な設備、準備を全て整える。
今年度は海外研修がすべて中止となる。

(7) 学生受入募集

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|-------------------------------|---|---|---|---|
| ○ 学生募集活動は、適正に行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 入学選考の時期、基準、方法は適正に行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学納金は妥当なものとなっているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課 題〉

既卒者に対する募集活動と教育成果のアピール強化。
留学生に対する募集活動の強化。

〈今後の改善方策〉

改訂された入試制度の十分な告知が必要。

〈特記事項〉

大学入試改革の変化に対応した入試制度が整う。
入学時の奨学金を抑え、在学中の奨学金制度の充実を図った。

(8) 財 務

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|-----------------------------|---|---|---|---|
| ○ 中、長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 財務について会計監査が適正に行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 財務情報公開の体制整備はできているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課 題〉

既卒者等19歳以上の入学生の増加を図る。
不採算事業、特にコロナ禍の影響を大きく受けた社会人教室の早期見直しが必須。

〈今後の改善方策〉

社会人教室の根本的組織変更と立て直し。

〈特記事項〉

コロナ禍においても増収となるなど経営基盤の安定が顕著となる。

(9) 法令遵守

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|---------------------------------|---|---|---|---|
| ○ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学校評価の実施と問題点の改善を行っているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学校評価結果を公開しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |

〈課題〉

学校評価においては、今後第三者評価による点検を推進することが課題。

〈今後の改善方策〉

第三者評価による点検を図る。

〈特記事項〉

特に無し。

(10) 社会貢献・地域貢献

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか | 4 | ③ | 2 | 1 |

〈課題〉

新型コロナ感染拡大の影響により、社会貢献活動・地域貢献活動、公開講座などの機会が奪われる。

〈今後の改善方策〉

コロナ禍においての社会貢献・地域貢献活動の創出。

〈特記事項〉

日本デザイン団体協議会(D-8)のシンポジウムにボランティアとして参加。コロナ感染対策の一翼を担い、協議会より多大なる感謝と評価を得る。

(11) 国際交流

【評価項目】

適切:4/ほぼ適切:3/やや不適切:2/不適切:1

- | | | | | |
|---------------------------------------|---|---|---|---|
| ○ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ○ 留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続き等がとられているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ○ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | 4 | ③ | 2 | 1 |

〈課 題〉

新型コロナ感染の影響により、留学研修制度の派遣、海外アーティストの招聘などの全ての行事が中止となる。留学生応募者の減少。

〈今後の改善方策〉

日本語学校との連携を図る。

留学研修制度や海外アーティストの招聘の復活。

〈特記事項〉

特に無し。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1) 教育評価

本校は、美術・デザインの造形教育アカデミーとして数多くの優れた人材を輩出してきた。また社会人としての自覚・責任を持つと共に時代の大きな変化にも対応できる柔軟性と応用力を兼ね備えた人材育成にも努めている。本校では常に時代の一步先を見据えたカリキュラムを組み、グローバルな視点に立った最先端の教育をより効果的な指導方法で取り組み、また日々怠ること無く、更なる教育内容の充実と研鑽を図っている。おろそかにされがちな美術教育を一専門学校とはいえ、豊島区と連携を図りながらアートと文化の発展を目指し、またSDGsにも掲げられる「質の高い教育」を全ての年代の人へ向けて提供している。今後は外部からの意見を取り入れながら、これらの結果の積極的な情報開示と、美術・デザイン・文化の重要性を訴えていかなければならない。

(2) 財務評価

コロナによる影響が予想され、留学生応募の減少が見られた令和3年度の学生募集においても定員数を超えた応募があり、全校生188名と全学年ともに充実した学生数となる。学生数の増加に伴い、災害時対応などの見直しが必要な部分の洗い出しと、大規模修繕に向けた資金確保が当面の課題となる。

(3) 自己評価

新型コロナウイルスのパンデミックによりリモート授業への転換という特異な状況下の中、極めて短期間でリモート授業の設備・機器の充実、また学生支援も素早い対応を実施し、休校明けには全ての学生が大きなトラブルもなく授業が再開。さらに大学に先駆け、いち早くリモート授業と対面授業のハイブリッド型を実現。予定されていた授業を一つも短縮すること無く全て実施した。

また徹底的な感染防止対策を行い、学生への呼びかけも徹底させることで、新型コロナウイルス陽性者を1人も出していない。ただし、ほぼ全ての行事や学外研修が中止となったことが断腸の思いである。

特に国際交流、研修旅行の中止。学生間の交流イベント、卒業生との交流イベントの中止。さらにオリンピック・パラリンピック開催地として予定されていたアート・カルチャープロジェクトなども全て中止になったことで失われた教育は極めて大きい。

次年度へ向けての課題として、引き続き感染防止対策を強化しつつ、リモート授業と対面授業のハイブリット型授業の向上。目の前の課題としては昨年度失われた教育機会の回復、代替え案の実施などが必要となる。

さらにコロナ後のクリエイティブ業界の変化とそこで求められる新たなる時代の人材を見据えて、教育カリキュラムの改訂の再点検が急務である。少人数制で規模が小さい小回りが効く学校の長所を活かし、常に一步先の手立てを推し進めていくことが肝要である。

5. 学校自己評価委員の評価結果について

上記報告書は、創形美術学校自己評価委員として、妥当な評価であることを確認し、認めます。

創形美術学校評価委員 令和3年6月11日

高澤学園 理事 創形美術学校 学校長 山本哲次

高澤学園 理事 創形美術学校 主任 工藤礼二郎

創形美術学校 事務長 田村和稔